

浅野基樹 技術開発調整監 日本評価学会奨励賞を受賞

平成20年11月29日～30日に京都市の同志社大学で開催された日本評価学会第9回全国大会において当研究所の浅野基樹技術開発調整監に奨励賞が授与されました。

受賞理由は、入会以来の学会活動への深い理解と惜しまぬ協賛及び第8回全国大会での優秀な研究成果の発表、これらによる学会の発展への大きな貢献です。

日本評価学会は、2000年に行政評価を研究領域として設立された学会であり、評価の体系、評価の手法及び評価の技術を研究分野とし、学会誌・会報の発行、投稿論文の審査、研究発表会・シンポジウム・セミナーの開催等の活動を行っています。会員は約400名、現在の会長はオリックスの宮内義彦会長、副会長は同志社大学の山谷清志教授と東京工業大学の牟田博光教授で、人文系の研究者が多い学会となっています。現在、学会活動の大きな流れは、行政機関で実施される政策の評価に関わる研究及び政府開発援助（ODA）の評価に関わる研究の2つとなっております。

本学会の学会賞には、論文賞、奨励賞および功績賞の3つがあります。論文賞は学会誌に掲載された論文が評価学研究に大きく貢献した者、奨励賞は評価学研究の進歩に寄与する優れた研究をなし、なお将来の発展を期待しうる者、功績賞は評価学の発展に関し顕著な功績のあった者に授与されるものです。今回は、論文賞と功績賞には該当者がなく、奨励賞のみの表彰となりました。

浅野技術開発調整監の受賞対象論文は、昨年の第8回全国大会で発表した「冬期道路管理の業績評価とマネジメントについて」と題する論文です。本論文は、スパイクタイヤ規制後の冬期路面管理の業績評価を、政策に係わるインプット、アクティビティー、アウトプット及びアウトカムの因果関係を整理するロジックモデルにのっとり試行した結果を報告したものです。冬期路面管理の最終アウトカムを冬期交通安全、冬期交通特性等とし、中間アウトカムを連続すべり抵抗値としてモデル路線で実測した結果を報告しました。冬期道路管理という技術的な分野に政策評価という新しい視点でアプローチしたことが評価されたもの

と思われます。

社会資本に関わる技術開発を通して社会に貢献するためにも、このような政策評価的な視点を持ちつつ研究活動を行うことは、今後の土木研究所の研究活動にとっても大いに参考となるものと考えられ、今後の発展が期待されるものであります。

（文責：研究調整監 小町谷 信彦）



写真 日本評価学会奨励賞を受賞した
浅野基樹技術開発調整監